

Singapore National Day (独立記念日)

シンガポール駐在員事務所
島 宗辰

多民族国家のシンガポールではいろんな宗教に関する祝日を取り入れていますが、シンガポールらしさが出ているのは8月9日のSingapore National Day (独立記念日) だけではないでしょうか。 本日は今年で53回目となるこのSingapore National Day についてレポートしたいと思います。

第2次世界大戦後、イギリスの植民地下にあったシンガポールですが、1963年のマレーシア連邦の結成時にマレーシアの一部となりました。しかし、マレーシア連邦結成時からマレー人と華人の対立は激しく、1965年8月9日にシンガポールはマレーシア連邦から追放される形で都市国家として分離独立することとなりました。そのときの初代首相がシンガポールの建国父とも言われるリー・クアンユーです。彼の卓越したリーダーシップにより国が発展し、資源を持たない小さな国であるシンガポールは、今では1人当たりGDPで日本を追い越すほどにまで成長しています。

毎年8月9日が近づくと、いたるところでシンガポール国旗が多く見られるようになってきます。ちなみに、シンガポールでは他国の国旗を公共の場で掲揚することは禁じられており、自国の国旗掲揚も8月9日ははさんだ前後各1ヶ月間に限定されています。この時期は街の洋服店では赤を基調とした服が多数並び、雑貨屋さんには国旗等が販売されるなど、独立記念日前の風物詩となっています。

日本でおなじみのDAISOのシンガポール店にも、もちろん各種シンガポールグッズが置かれています。8月9日には多くの人が国旗の色(赤と白)をイメージした服を着用し、シンガポールの独立記念日を祝福する様子が街中のいたるところで見ることが出来ます。

独立記念日のメインイベントは盛大なパレード (National Day Parade) ですが、シンガポール国民・永住権保有者のうち、抽選で当たった人しか会場には入れません。ただし、会場近くでは戦闘機によるパフォーマンスや花火を見ることが出来ますので、会場に入らなくても十分に楽しめます。「シンガポール国民でもない、8月9日にシンガポールにいない」という人でも独立記念日の雰囲気を感じられる日が何日かあります(もちろんシンガポールに居なくてははいけません!)。7月頃から毎週土曜日にリハーサルが開催されており、リハーサルとは思えない規模での花火が楽しめます。

近代国家的な面がクローズアップされがちなシンガポールですが、これを機会にシンガポールの歴史を調べてみてはいかがでしょうか?



リハーサルの花火



空軍ヘリによる国旗輸送(リハーサル)



国旗の色(赤と白)をイメージした服

(2018年7月)